

【資料】

平成25年度 林業研究・技術開発推進

近畿・中国ブロック会議育種分科会

坂本 庄生¹

平成25年度林業研究・技術開発推進近畿・中国ブロック会議育種分科会を10月1日に近畿中国森林管理局において、林野庁、近畿中国森林管理局、関西育種基本区内の各府県及び関係機関から56名が出席して開催された。

概要は次のとおりである。

最近の林木育種の状況について

林野庁から、①林木育種に関する情報提供で「苗木安定供給事業（新規）」、②特定間伐等及び特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本指針について、林木育種センターから③特定母樹の申請と指定後の原種配布についての説明があった。

林木育種の推進について

(1) 国土・環境の保全に資する品種の開発

①「マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発」について、府県で選抜されたクロマツ候補木の二次検定を実施した。また、山行き苗木の抵抗性を高めるため、抵抗性マツの現地での性能評価やより抵抗性の高い第2世代品種の開発を各府県と連携して進める。②「花粉症対策に有効な品種の開発」については、さらなる花粉の少ない品種を開発するため、徳島県と共同でスギ精英樹の雄花着花性を調査した結果、2クローンが少花粉品種候補木となった。無花粉スギの開発では、林木育種センターで開発した「爽春」及び「三重不稔（関西）1号」と成長や材質等に優れた精英樹等との人工交配を進める。花粉症対策品種による採種圃の造成では、花粉の少ないスギ・ヒノキのミニチュア採種圃を造成する予定である。

(2) 林業再生に資する品種の開発

①第2世代スギ、ヒノキの選抜について、四国北部及び四国南部育種区で、スギエリートツリーとして38品種が認定され、その中から21品種がスギ特定母樹（間伐特措法の改正による）として大臣指定された。また、初期成長等に優れた品種開発及び第3世代選抜

のための育種集団林の造成を行う。近畿、瀬戸内海、日本海岸東部、西部育種区での取り組みは、第2世代候補木の選抜として、国有林内のヒノキ次代検定林から平成23年度及び24年度で130本の候補木を選抜した。②「幹の炭素貯留量（幹重量、二酸化炭素吸収、固定能力）の大きいヒノキ品種の開発では、次代検定林等で調査した成長、材質等の調査結果を基に品種開発を進める。

(3) 育種種苗の生産と普及

育種種子の生産と普及状況及び林木遺伝資源の収集・保存について今年度の計画を説明した。

林木育種事業の取り組みについて

平成25年度の各府県の取り組み状況は、概ね前年度に引き続いた事業・研究が計画されている。新たな取り組みとしては、エリートツリー等の成長の早い品種のミニチュア採種圃の造成が着手される。

協議（意見交換）

協議事項として、①林業の再生に資する品種（スギ・ヒノキ精英樹）、②マツノザイセンチュウ抵抗性品種について、③花粉症対策に資する品種について、採種圃の造成、種苗生産するにあたっての課題、問題点等について協議した。

提案・要望事項

以下の提案要望があった。

①コンテナ苗と同様の効果で低コストとなるような新たな育苗技術の開発、②積雪地帯に対応したエリートツリーについて、③四国4県共同による無花粉スギの探索。

その他

兵庫県による、マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ登録品種「播磨の緑」の取り組みについて説明があった。

¹ さかもと しょうき 森林総合研究所林木育種センター関西育種場